

…はなの村の四季…

早咲きさくらの新品種「掛川桜」

小関 栄

三月とはいえ、まだ桃の節句が終わったばかりの掛川城界隈にピンク色の花が咲き始めた。それから僅か数日で満開になっていた。桃の花のように見えるが、さくらの花だ。



この周辺の昔からあったさくら(ソメイヨシノ)は、掛川桜の小枝の蕾三月末から四月の始め頃が満開になっていたが、数年前から次第に植え替えられた新しいさくらは、三月半ばの彼岸前に満開となり、「逆川の早咲き桜」とか「掛川の河津桜」と云われていた。

この花の特徴は桃の花によく似ているが、花弁はより小さく、上の写真のように、ぶら下がって丸く可愛らしく咲く。たくさんの花が房状になり豪華、よく似ている河津桜よりは開花が十日ほど遅く、ソメイヨシノよりも二～三週間早く咲く。

このさくらを植えた田旗康二(市内葛川の造園業)さんに聞くと、十年ほど前、たくさんのさくらを育てている内に、偶然一本の早咲きさくらを見つけた。これを伐り取って接ぎ木した。それから毎年、繰返し接ぎ木を重ねて増やしたものを、順次、掛川城やその近くの逆川沿いに植え続け、これが今年一斉に華やかに咲いたのであった。

在来のさくらとは異なり珍しいので、先般、公益財団法人日本花の会に鑑定を依頼してみたところ、これは寒緋桜と山桜の自然交配による新しい品種と認定された。

早速、掛川市では、この新品種のさくらを「掛川桜」と名付けて、花の満開の三月十日、掛川城前でその命名式を挙げていた。

早咲きの 掛川桜に 人集う 淡水



桜と城 3月12日撮影